

日本人建築家夫婦、アメリカ東海岸でがんばる 第四回

ランドスケープアーキテクトって何？

河井容子 with 栗本貴哉

アメリカでのランドスケープアーキテクトという職業



ニューヨークの何気ない風景。
肌の色が違う人達が行き交うの
が普通の風景。

日本に帰った時に自分の職業を説明するのは、時として厄介である。というのも、正式には私の職業はランドスケープアーキテクト(Landscape Architect)なのだけでも、日本ではまだまだ馴染みのない職業名である。説明するのも面倒だから、「造園デザイナー」とか「環境デザイナー」と適当に言っている。

ランドスケープアーキテクトは、主に公共のオープンスペース、公園や広場をデザインする職業であると言える。当然それだけではないのだけれど、こう言えば、誰でもイメージがしやすいだろう。例えば、公共の広場の設計図を作れば、その図面は登録されたランドスケープアーキテクトの署名が必要になる。要するに、建築士が建物の設計図に責任を持つと同様のことが要求されるわけである。

19世紀の終わり頃、ニューヨーク、マンハッタンのセントラルパークを設計したフレデリック・ロー・オルムステッドという人が、初めて自分の職業はランドスケープアーキテクトであると称したのが、職業名として最初である。

風景建築家、とでも訳したほうが本当はいいのだろうか。アメリカでは、建築士と同様、ランドスケープアーキテクトも資格を習得しなければいけない職業である。ただアメリカという国は、資格の管理は各州で行っているため、州に資格を登録する必要がある。

どうやってランドスケープアーキテクトになるか。まず全米ランドスケープアーキテクト協会(American Society of Landscape Architects、略してASLA)公認の大学プログラムを修了する必要がある。その後、州によって年数は異なるが、2、3年の実務経験を経れば、資格試験の受験資格が得られる。試験に合格すれば、自分が活動する州政府に登録を申請するわけである。面倒なのは、各州毎に資格が管理されているため、例えば自分が登録している州外で、公共の仕事をして、自分がサインする立場にあるとき、わざわざ、その別の州での登録も必要になる。地方分権の強いアメリカならではの、かもしれない。

ランドスケープアーキテクトと造園家の違い

ランドスケープアーキテクトという職業が誕生して今日まで 100 年あまり。建築家、あるいは土木技術者の職業と比べれば、明らかに、はるかに新しい職業である。そのせいもあるが、アメリカのランドスケープアーキテクト達は、自らの職能を確立するために、様々な努力をしてきた。特に、自分達は庭園デザイナーとは違った専門家であるというために、広域でのエコロジカルな観点で環境を評価、デザイン、計画作成する能力を開発してきたことの意義は大きい。

ランドスケープアーキテクトは、造園に関する知識や技術、とりわけ植栽に関する知識を持つ。しかしそれだけでなく、ランドスケープアーキテクトには、都市計画、都市デザインの知識や手法も必要である。都市の公共空間である広場などは、緑があれば事足りるわけではない。そこには交通、防災、さらには情報発信の観点から、広場をデザインする必要があるし、建築や土木の分野との協同作業が前提となる場合が多い。



ケープ コッドの小さな灯台。ニューイングランド地方の心象風景。

ペンギン事務所では、現在のところパブリックの仕事を請け負っていないが、以前勤めていたデザイン事務所では、イェール大学のキャンパスの改修プロジェクトが多かった。概して、イェール大学のような古い大学は、非常に古い石造りの建物が今でも使われているが、当然、今のユニバーサルデザインの観点から作られていない。コートヤードも然りである。そういった古い空間をユニバーサルデザイン仕様に変更するのも、今日では重要になってきた。

風景がテーマ

私の普段の行動範囲はニューヨーク市とボストン市を両極にした地域、いわゆる南ニューイングランド地方である。アメリカのほんの一部の地域だが、それでも距離にして 400 キロの範囲である。その地域の風景の中で、20 年近く生活してきたことになる。

ランドスケープアーキテクトの仕事をしてきて、日本とは違うアメリカの側面に肌で接してきたと思う。一番の感想は、ありきたりだが、アメリカという国は広い、ということだろうか。空間的に段違いに広いと、人間の感覚や思考は、それに順応し、それをもとにして土地の文化が形成されていくように見える。

たまに日本に帰ると、慣れ親しんでいたはずの風景に、自分がフィットしていない感覚に襲われることがある。20年近くも、アメリカの風景に関わるデザインをしてきたからかもしれない。自分の身体感覚がすっかりアメリカの空間に馴染んでいるのだろう。風景をテーマにするデザイナーとしては、風景とは一体何なのかということも、今後も考えていきたい。
(T)

ペンギン・エンヴァイロンメンタル・デザイン： 米国コネチカット州に本拠地をおく、建築とランドスケープの設計事務所。河井容子と栗本貴哉との共同主宰。一級建築士事務所（大阪府登録）。

本文の著作権は、Penguin Environmental Design L.L.C.に属し、個人使用以外のコピー、配布を禁ずる。本文内容についての問い合わせは、info@PEDarch.com まで。